

海洋生物科学科

学科の
詳しい情報
>>>>



分類、生態、行動、生理、漁業管理、海洋学、プランクトン、軟体動物(貝類・頭足類) 節足動物(甲殻類)、刺胞動物(クラゲ・イソギンチャク)、海藻、魚類、海鳥 海棲哺乳類(クジラ・アザラシなど)、海洋環境、共生、生物資源、保全、比較解剖 捕食・被食関係、バイオロギング、海洋環境影響評価、海洋プラスチック、気候変動 バイオメカニクス、統計解析、繁殖、生活史、分析化学



生命の謎解き

水圏の生物学、特に海洋動物の形態、分類、生態、行動、生活史、進化、多様性を追求し、水圏生物とその生息環境を保全・管理し、水圏生物資源としていつまでも活用し続けるための基礎的事項と最新情報を学びます。海の生物の世界については、多くの生命の謎が隠されています。みなさん、水にすむ生き物の謎解きに挑戦してみませんか。そして生命の星“地球”と私たち自身の未来をこの学科でじっくり考えてみませんか。



海洋生物科学科・学部4年

二瓶 聡

私は魚をはじめ生き物が大好きだという一心で海洋生物科学科に進みました。海洋生物科学科は、海の生物を主役に生態、行動、進化、また環境や資源量の変動に注目した研究を行う学科です。実験、実習も充実しており、長期間航海して海洋観測や目視調査を行う乗船実習、フィールドに出て生物の行動や生物相を観察する実習などがあります。周りには特定の分野に情熱を持って追及している同期や先輩が多く、学科ならではの人脉をつくることのできるのも魅力的です。好きなことを突き詰めるのには最高の環境です。

VOICE
学生の声

● 研究室の紹介

浮遊生物学

教員：山口・松野



動物プランクトン

プランクトンネット採集

海洋生態系の始点である、植物プランクトン・動物プランクトンを対象に、北海道沿岸から北極海、深海まで幅広い研究を行っており、長期的な気候変動の海洋生態系への影響評価や、漁業被害のある赤潮の研究も行っています。歴史と伝統のある研究室です。

動物生態学

教員：和田・石原



水生動物と環境(同種・他種生物も含む)の関係や、動物のふるまい(行動、形態)や、生き様(生活史)を研究しています。

水産資源学・鯨類学

教員：松石



新種クロツチクジラ

東南アジアでの漁獲物調査

混獲ネズミイルカ介護飼育

全世界で持続可能な漁業を実現するために、入手可能な限られたデータから、資源量の推定法や乱獲を防止する漁獲方法を、フィールド調査と理論研究から提言します。また、漂着・混獲鯨類を調査し、生物多様性保全と漁業と鯨類の共存条件を模索します。

海洋環境科学

教員：工藤(勲)・大木・芳村・野村

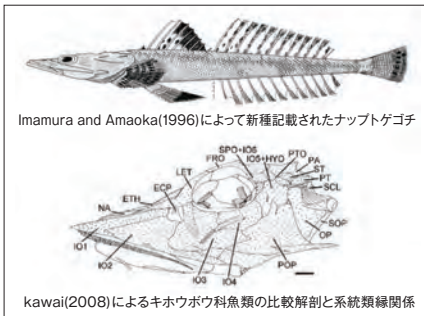


カヌーでの河口域調査

海水中の炭素、窒素、リンなどの物質の動態は海の命を支える基盤であり、地球の気候にも影響します。河川から沿岸、外洋、北極、南極までを調査し、化学分析を駆使して、その仕組みを解き明かします。

魚類体系学

教員：今村・河合



Imamura and Amaoka(1996)によって新種記載されたナツトゲゴチ

kawai(2008)によるキホウボウ科魚類の比較解剖と系統関係

「魚類の種多様性」を探求するフィールド・サイエンスとして、「形態学を基盤とした魚類の体系学」を研究しています。

資源生産学

教員：高津・中屋



水産資源の変動予測を実現するために、野外調査で水産生物の生態と生息環境を調査しています。また、飼育実験で水産生物の産卵・繁殖特性や初期生態などを解明しています。

資源生態学

教員：綿貫・山村・ティエゴ



バイオロギングで海鳥を調べる

トドと陸場の観察

大型魚類、海鳥類そして鰐脚類といった、海洋生態系で高い栄養段階に属する動物が、生態系で果たしている役割や、環境変動にどのように応答しているかを調べています。乗船や繁殖島でのフィールドワークに加えて、飼育実験による生理学的なアプローチも行っています。

海洋共生学

教員：工藤(秀)・パウア・秋田



ミスズダムの行動

サケの産卵調査

北極カゴメ

海洋共生学講座のなかの「生物学ユニット」が、北方系水産生物資源(特に大型藻類、頭足類、サケ類)の持続的かつ地域特異的な利活用を目指す、基礎から応用までの生物学的・学際的研究を展開しています。

研究航海



海洋観測で海水を採取

洋上実習Ⅱは、おしよる丸の長期(50日間)の研究航海に充てられています。海洋物理、海洋化学、海洋生態の調査をします。数年に一度の頻度で北極海へも行きます。